
原宿殺人事件

nao

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原宿殺人事件

【Nコード】

N2956Z

【作者名】

nao

【あらすじ】

椎奈は、姉と原宿で遊んでいた。すると、緊急ニュースが始まった。そこであらわにされたのは、サタンと名乗るものの、凶悪なメッセージ。しかしそれはほんの、ファーストステージでしかなかった。

サタン降臨

第一話

【サタン降臨】

原宿駅前で、椎奈と姉の百合が二人でナンパ待ちをしていた。

「椎奈あ、あたしオナカすいちゃった。あのお店入らない？」

「いいよお。オナカすいたあ！！行こつ。あ、でも、椎奈、パパにメールいれとかないと。ママに頼まれたんだ。」

「ふうん。パパ、また会議？てか、速くしてよオ。お店入りたい！！」

「待つて、百合姉！！もうちょいで・・・よし！送信完了・・・」
ピピピピピーーーーーッ！！

「エ！？何」

「ふっ笛？」

突然、ビルについてるでつかいTV画面から、笛の音が聞こえた。
椎奈とその姉の、百合はあわてて画面を見る。

周りもあわてているようだ。すると、画面にいきなりアナウンサーが映った。

さっきまで料理番組をやっていたはずだが、ニュース番組に変わる。

『アナウンサーの柏木です……。急遽日テレの番組を変更させてもらいました。ご迷惑おかけし、まことに申し訳ありません。ただ

いま入ったニュースです。十分前、警察に無名で、こんな手紙が届きました。

警察の皆さん、始めまして。わたしは、サタンです。そう呼んでください。

さて、本題に入ります。わたしは、悪魔の王です。その王が直々に人間界にやって来ました。それも日本にです。

日本の皆さんは、なんて幸運なのでしょう。

そうだ、もっと幸運なのは、ヤグニ コウジロウという青年です。

先ほど、わたし、サタンが殺しました。サタンに殺されるなど、すばらしい事だと思いませんか？

原宿の、「ダム」というクラブの横のゴミ箱に捨てておきました。ごみはゴミ箱に捨てるものですから。

確認して大丈夫ですよ？罠では決してありません。わたしは醜い人間と違い、嘘をつく必要が無いので、嘘はつきません。

わたしは、人間界に警告にきたのです。人間ごときがえらそうにするな。と。

また手紙を送ります。

サタンより

警察が調べたところ、ゴミ箱に本当に青年は捨てられていました。手足が切断されていたそうです。

以上、柏木がお伝えしました。また情報がありましたら、お伝えします。
』

そう言い、料理番組が再開された。一方、見ていた駅前の人々の反応は、おもしろそうだと盛り上がる若者。おびえる大人。色々だった。

椎奈と百合は、啞然としていた。

「ありえないくない？百合姉・・・」

「う、うん。やばくない？あれって、パパ達どうするんだろっ。」

「警察も、びっくりしてんのかな。・・・てかさ、原宿のゴミ箱につて・・・ここから近いっしょ!？」

「こっわー!今日家帰ろ!」

「オツケ」

そう言い、椎奈たちは帰った。

これが凶悪殺人鬼、サタンの降臨だった。

東京捜査本部

第二話

【東京捜査本部】

「クソッ！！サタンなんてふざけた事をしてる奴は誰だ！！」

「原宿殺人事件」東京捜査本部、刑事課係長、池上 良次は、目の前にある机を蹴飛ばし、頭をかかえていた。

「・・・池上さん。そう、荒れないで。まだ調べて間もないじゃないですか」

「・・・峰神。ずいぶんと落ち着いてられるモノだな。犯人の目星は着いてるんだろ なあっ!？」

「ま、まだですけど・・・でも、そう怒ったって、事件は解決しませんよ・・・まあ、確かに、目撃情報が一件も出てこないなんて・・・俺もいらつきますけど。まー、頑張ろうじゃあないですか。」

「・・・ふんつ。暢気な奴だなあ。おい。・・・缶コーヒーでも買ってくる。ちよいと、席を外すぜ。」

「了解です」

池上が席を外すと、峰神の隣の席の刑事が声をかけてきた。

「峰神さん、俺、あの係長苦手なんすよ。・・・荒っぽいし。もう
ちよい、クールに行った方が良いと思うんすよね。」

「・・・新垣。お前は気を抜きすぎだ。」

「あはっ、そっすか？。俺、これでも一応、真面目にやってるんす
よ。」

その言葉を聴いて、峰神はため息をつき、こう言った。

「お前、絶対、宿題とかギリギリになってやり始めて、怒らてたろ。」

「なんで分かったんすかあ！？エスパーっ！？俺、超能力に興味ないすよ。」

すんなりと交わすのか、嫌味だと気づいて無いのか。峰神は呆れ顔で微笑んだ。

「お前なあ、何で刑事になったんだ？事件を追うため、じゃないのか？」

「え？モテるためすよ？刑事って、かつこいいですよ。てか、この事件、かつこいいと思いませんか？」

「はいいゝゝ？」

「なんか、ドラマとか小説とか漫画みたいじゃあないですか！サタン、なんて。世の大人達は、頭の狂った奴、とか、中二病の親父、とか言ってるすけど、俺的には、かけっお兄さんしか思い浮かばないんすよ！！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「あ、仕事やべっす！じゃあ、現場行ってきます。あざーしたっ！」

「おう？・・・・・・・・」

そうして、捜査本部の日常は終わる。

何の情報も、掴めぬまま。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2956z/>

原宿殺人事件

2011年12月27日23時46分発行